

森林塾通信

第5回森林塾報告 テーマ「下草刈り」

『ただやれば良い、ではないぞ下草刈り』

この時期当然雨も降り、そのために草や木も良く伸びるので多少の雨なら仕事としての下草刈りはおこなわれます。でもちよつと外へ

出るのをためらう本降り。午後からは快方に向かうという天気予報に期待して、一昨年の森林塾植林地である箕輪町、長岡区有林へ行くのは諦



縄文さんの草刈り風景、鉄器を使っている



3年前に植えたコナラは長島さんの背丈くらいになった



アイスブライス、目の形に輪をつくる

め、午前中は小屋の周りのヒノキ林に降る雨の音をBGMに、先生方の保育の説明を聞いたり、ロープの端末加工の練習をしたりということになりました。

最盛期には年に20haの下草刈りをこなしていたという保科先生の説明には重みがあります。しっかりやっても一人1日1/4haそこそこかなという仕事を年2回、クズなどがあるところは3回刈ること



生食より果実酒向けのニガイチゴ

もあつたという凄さです。何せこれだけの労働力を投入するので、最も適切な時期に適切な方法でおこなわないともつたいない。幼木の



保科先生の鎌砥ぎ模範演技



アイには巻きと割りがある

の下枝が枯れてしまつてからは風による根曲がりや防げないし、同じ理由でできるだけ地ヅラから刈らないといけません。またヤマブドウなどのヒゲヅルは幼木を巻殺してしまつ程の力があるので見つけ次第始末するとか。「長年これだけのことを続けているとやはりどうしても膝にきま

すね。」除草剤は後々を考え

るとためらうし、機械化も刈り払い機(ピーバー)止まりであるうし、人力でやるしかないねというお言葉でした。午後は雨もほとんど上がり、三年前の森林塾植林地、伊那市内の段丘林(中村山林)に出かけることができました。1反歩(0.1ha)強の山に、トチノキとコナラが植えられていきます。大人数のため一時間ほどで終わると

今回の内容

第5回 6月24日(土)

下草刈り

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合

こんな天気にも拘わらずまたまた多くの方がきてくれました。

当初の予定を変更して、午前中は雨の様子を見ながら小屋でまず先生方の下草刈りを主とした保育

のお話を聞きました。(鳥崎先生の話は下草刈りの

話の続きは下草刈りの



針になるまで砥ぐ勢いの山口さん

11時50分 昼食
1時5分 伊那市日影 中

時にマムシに出会った
らどのように捕まえどのよ
うに加工するかが中心で
した)
10時45分 ロープの端未加
工の練習。アイスブライ
ス(蛇口:ヘビグチつく
り)に挑戦しました。一度
覚えてしまえばそれ程難
しいものではありません。
車にアイの二つついた
ロープを一つ積んでおけ
ば便利です。(路の脇には
まってしまつて助けが来
てくれたがロープ一本が
ないというのがあります
なこと)ご自宅でも練習
してみてください。



神棚のマムシ焼酎が特別参加

村山林に到着 縦
一列に並び各々等
高線に沿つて下草
刈りを開始する。浜
田(正)さんはビー
バー、ほかは造林鎌
と手鎌で。ここはヤ
マウルシは殆どあ
りませんでした。
木イチゴ類、ウコギ、ヤマ
ガシユウ、サンショウな
ど棘のものが多く少し手
こずりました。

2時50分 小屋に戻り鎌研
ぎ開始。なれないと少し
怖い。

4時終了 解散。具呂さん、
山口(亜)さんはナタ研ぎ
にエスカレートしていま
した。山林主の中村さん
からコーヒートどら焼き
の差し入れあり。ごちそ
うさまでした。

参加者/池田さん、稲垣さ
ん、梅木さん、太田さん、岡
田さん、小沢さん、片岡さん
夫妻、神田さん、具呂さん、坂
田さん、坂本さん、佐藤さん、
杉野さん、鈴木さん夫妻、田
中さん、長島さん、中村(輝)
さん、芳賀さん、松下さん、皆
川さん、森さん、山口さん、横
井さん、小川さん、奥田さん、
奥本さん、粕谷さん、金子さ
ん、河原さん、鈴木さん、藤
村さん、村谷さん、山口さん、
大竹さん、大野さん、竹内さ
ん、浜田さん夫妻

講師/保科先生、鳥崎先生



胸あたりまであった下草が...

今回の復習&豆知識
「造林、保育では嫌われも
の『つる』を利用する」
一・山菜として ユリ科の
シオデ、草本ですが山のアス

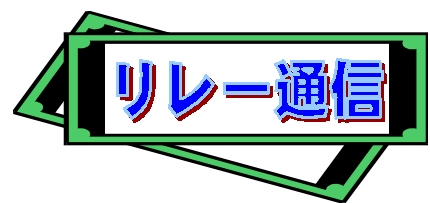
スタッフ/野口、藤原、宮崎
坪木、早川
測量と製図
8時30分 鳥崎先生の山小
屋に集合 ますみヶ丘平
地林にてトランシットコ
ンパスとメートル縄で方
位角、高低角と距離を測
ります。午後はそれを製
図しますので筆記用具、
あればスケール、分度器
計算器。雨具も忘れずに
第7回 7月22日(土)
間伐
測樹と保残木マーク法に
よる間伐。場所未定。塾終
わり次第、夕方から暑気
払い大会に入ります。雑
魚寝になります。小屋に
宿泊できますので、あれ
ばシュラフを。



こんなにきれいになりました。

二・食べられる実 そのま
ま食べるならサルナシが横綱
級か。熟れたものは最高で
す。懐かしい味アケビ。
三・つる細工 リースなど
にして品が良いのはアケビの
つる。フジの内皮はとて毛丈
夫で利用価値は高いので
が、加工は手間がかかりま
す。詳しくはイントラ宮崎に
聞いて下さい。

四・薬効 マツブサの茎を
秋に採り、輪切りにして日陰
干し。寒い日、できたものを
一掴み布袋に入れて鍋で煮立
たせる。そのエキスを風呂呂
に入れると良く温まるそう
です。香りも良くいかにも効き
そう。マタタビの焼酎付け
臭くてまずくていかに薬効
うなところがたまらない。滋
養強壮です。



『鈴木家ただいま修行中

Vol. 1

鈴木 敏晃

30半ばにして、学割の利く
鈴木家の旦那です。今、木曾
で木工を学んでいます。以前
は大手の建設会社でサラリー
マンをしていたのですが、開
発により利益を得、それに
よつて生活をする自分に非常
に矛盾を感じていました。例
えば原発などは、原発自身も
問題ですが、それが人里離れ
た海辺にこつそり隠れる様に
計画され、それよりのどか
な入江がコンクリートで埋め
られてしまつ。そんな計画や
ダム計画やトンネル工事など
の公共事業は、自然破壊以外
のなにものでもありません。
それなら市街地に計画される
建物はいいのかとつと、古
い建物の跡に新しく建つので
すから、当然古い建物は、産
業廃棄物です。そしてそれ
は、山の中に捨てられるので
す。そんな会社に肩を貸すの
はやめにして、自然からの恵
みを利用して自然に負荷のな
い生活をしようとする木工を始め

たのです。しかし考えてみれ
ば家具材となる木も、国内産
にせよ国外産にせよ、山の中
から切り出してくるのですか
ら、どのみち大なり小なり、
自然を破壊してしまつてい
るのです。今後は、そのあたり
をどこまで解決できるかが問
題です。
堅い話はやめまして話はガ
ラツと変わりますが、農耕民
族と狩猟採集民族、関西人と
関東人、或いは60ヘルツと50
ヘルツという分類でもいいで
すがあなたはどちらの系統の
人間ですかと言われれば、鈴
木の妻は前者、夫は後者で
しょうか。もともと日本列島
はなんとなく一つのまとまり
があり、大和或いはアイヌの
土地だったところ、朝鮮半島
からの弥生人の流入が強ま
り、それと共に西日本に農耕
文化がもたらされたというの
は、ご存じの通り。(間違つて
いたらごめんなさい。)
植物の観点からみれば西日
本に多いカシの木の実はず
く、東日本に多いブナの木
の実はずく、仕方なくと言つてはなんです
が、カシの木地域では農耕が発達
し、ブナの地域では狩猟採集
が発達したそうです。これは
最近仕入れた豆知識から。言
われてみればなるほどと思
います。猟師の「マタギ」と言
えば東北ですし、アイヌの人
が田畑を耕したという話も聞

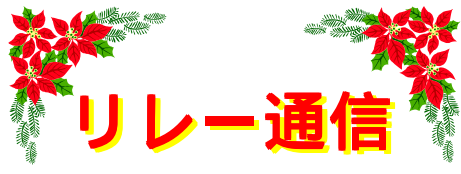


きません。話は飛びますが、以前あるアウトドア雑誌の企画で「マタギ体験ツアー」なるものに参加したのですが、その時食べた野兔の味噌汁は獣の匂いと言いますか、ウソの匂いと言いますか、はつきり言つてうまくありませんでした。狩猟民族と言つても本物にはなれそうにありません。

話を戻しまして、なぜ妻が農耕民族で、夫が狩猟採集民族かと言いますと、カミさんの方は今までやりたくて仕方がなかった「畑」が手に入り、それに夢中になつていきます。もともと本を読むのは好きで、(好きな言葉は晴耕雨読だそうです。)農業の本を何度も読んでは何種類もの苗や種をせつせと蒔いています。そのうち、鶏や山羊も飼うことでしょう立派な農耕民族

の誕生ではありませぬか。それに比べてわたくしの方は、道具を携えて出かけるのが好きで、都会風に言えばアウトドア遊びが大好きです。幼年期の時から学校から帰ると暗くなるまでとにかく「外」で遊ぶ生物でした。家の中で読書をした記憶などはまったくありません。東京の西のはずれの日の出町(最近では、ゴミ問題や、中曽根の別荘で有名)という田舎町で生まれ育つたので、(因みにカミさんは大田区育ち)野山川の遊びでした。「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川」とか「山の畑の桑の実を小籠に摘んだは」と言う歌は幼児体験と随分重なる歌です。そのまま大きくなったので、体は家外行動向きに出来ているのでしょうか。一ヶ所で作物を作るより、野山川へズンズン入り込んで喰物を捜す方が好きなのです。実際に木曾に来てからは畑仕事よりも山菜探しに力が入ってしまいました。山菜と言えば東北ですが、木曾も東北のような気候の為か山菜も豊富な様で、「食べられる草木」が頭にインプットされると、野山を歩くとそればかり目に入ります。カミさんはそういう野性的感性が少し鈍いようです。

この間、畑に行く途中にウドがあるのを発見し、私は有頂天で、さっそく引っこ抜いて一人でがりがりほっぽっていただけですが、最近、畑の第一号収穫物があり、カミさんは大喜びでそれをがりがり食べていました。やっぱり農耕民族。そしてわたくしは、狩猟採集民族でしょうか。



リレー通信
『鈴木家ただいま修行中』
Vol. 2
鈴木 眞美

私たちには、生後二歳二ヶ月になる息子がいます。彼が私の腹に宿つてからというもの、かつて30数年間生きてきた価値観がガラガラと崩れ彼に導かれるように三ヶ月前、東京の町田から引越越し、木曾上松の生活と森林塾に到っている気がします。

私は妊娠を機に、「腹の子に良かれと「大地を守る会」という自然食の宅配に入りました。この会は社会への問題提起にも力を入れていて、塩ビのサランラップの回収運動、環境問題の講演会や署名運動など企画され、私は今まで知らなかつた日本の農業事情、食料、環境の問題を知り、「子供達の未来はこのままではいけない。では私はどうしたらよいのだろうか。」という気持ちで、答えが出ないままムクムクと妊娠の腹と共に大きくなってゆくのを感じていました。

そして出産。自然分娩に憧れていたにもかかわらず、どたんばで帝王切開になり、よくぞ無事に生まれてくれたと喜ぶのもつかの間、タマゴクラブ、ヒヨコクラブでイメーヅしていた穏やかな産後の生活とは大違い。オッパイが出ない吸わないと母乳マッサーに走り、泣き続ける息子を一日中抱き続けていました。やつと乳の出も、子供の状態も落ち着いてきた頃の六ヶ月から、息子は毎月のように風邪をひき、そのたびに高熱を出し、医者に言われるまま、抗生物質を飲ませ、解熱の座薬を入れ、レントゲンをとつてという生活が半年以上続きました。そして六ヶ月頃から始まる離乳食を手作りし、布おむつを洗い、はいずりまわるようになる家事で一番苦しい手な掃除もしないわけにはいかず、さらに追い打ちは、私は妊娠前、陶芸を生業としていたのですが、子育てがこんなに忙しいとは思わず、グループ展を約束して、昼はオンブしてロク口を回し、

夜は夜泣きの合い間に土をこね、ヘトヘトの毎日でした。そして成るべくして、私は体を壊します。しかし、幼い子と離れて入院はおるか、授乳中だったので、精密検査のCTの造影剤すら注射したくありません。どうしてよいかわからず、オロオロする時、東条百合子さんの「自然療法」の本を手にし、偶然、自然食の店で、自然治癒を高める手技という技術で身体を整える村本先生に出会い、結局、一ヶ月後にのびした再検査では、全て正常値に戻っていました。このことは、病気になるたら病院へと考えていた私にとって、人本来の生命力、昔から伝わる自然療法、人も自然の一部で、自然無くして生きていけないということを強く心に根づかす体験になりました。このころから私の子供の接し方も、我が家の食卓に並ぶものも変わってゆきました。

私が頭で考えるより、一番自然に近い幼い息子自身が、本当に必要なものをわかつているはずだと思い、できる限り遊びたいだけ外で遊ばせ、食べたいたいだけ、眠りたいだけ、風邪をひいても自然療法の手当て様子を見て、彼にまかせてゆくうちに、あんなに病弱と思っていた子は元気になり、ぐずることも少なくなりました。そして母子共にゆとりが出てきた頃、息子の縁が繋がって、自然育児の小倉美倭子さん、地球村の高木善之さん、自然療法、パーマカルチャー、そして昨年の森林塾生であった平田理子さんとの出会いがありました。平田さんは、彼女の言葉を借りれば、「循環する暮らし」を目指し、田畑をやりさまざま生活雑器を作り、食品加工をこなし、そして森林塾で学んだ技術を生かして、地元の山から材を切り出して一人で小屋を作っていました。この時期の出会いと感動は、私に母として人としてどうありたいかという疑問に答えを与えてくれている様でした。丁度その頃、主人が会社を辞め木工を始めたいと言出し、私は大喜びで彼の気持ちを煽りました。

今、上松の生活では、見真似で畑をやり、息子と一緒に野山で遊び、山菜を探り、陶芸も「素食の映える器」をテーマに、ボチボチ始めています。最近、電気も水道もない生活をしている一家と知り合い、彼らが、私に「人は出会ってゆくして出会うのよ」といいます。森林塾で学ぶことも、出会いも、きつと今後の私達にとって大切なこととして繋がってゆくのでしょうか。ネイティブアメリカンは、重大な決意をするときに、七代先ほどのような影響

